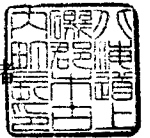


木まち第20-294号

平成20年10月16日

国土交通省道路局長 様

北海道上磯郡木古内町長 大 森 伊 佐 緒



今後の道路行政についての意見・提案について

平成20年9月19日付国道企第37号にて依頼のありました標記について、別紙のとおり今後の道路行政についての意見を提出いたします。

木古内町まちづくり新幹線課

まちづくり新幹線グループ

主査：片 桐（まちづくり担当）

電 話：01392-2-3131（内線 221）

F A X：01392-2-3622

E-mail：kazumi-katagiri@town.kikonai.hokkaido.jp

①道路行政全般についての改善すべき点、要望や提案など

北海道木古内町

当町をはじめ道南全域、また北海道全体を考えてみても、道路網整備は決して恵まれているとは言えない。北海道という広大な土地の中に点在する主要都市。しかしこれらを結ぶ高速交通のインフラ整備は、整備計画は持っているものの、今般の道路事業に関する世論の後押しもあってか、道路特定財源の一般財源化が来年度より実施され、地方部における道路整備は、さらに遅れていくのではないかと危惧をしている。

当町は、過疎地域であり高齢者比率も高く、高次医療の依存度も非常に高い町であると言える。しかし、高次医療を享受できるのは都市部に限られ、こうした救急医療の観点からも、過疎地域と都市部を繋ぐ高速交通のネットワークがどれほど重要であるかを議論していただきたい。

また、全ての国民は納税者として、都市部であっても過疎地域であっても、平等なサービスを受ける権利を持っている。しかし、今般の道路事情に関しても都市部と地方の格差は広がる一方であると言える。特に都市部に人口が集中することで、あらゆる機能が首都圏を中心に形成され、そこにアクセスする道路は必然的に交通量が増加していく。

現在の道路事業に関しての評価基準は、道路の使用頻度（交通量）が大きな基準になっているようである。しかし、この基準では、高齢者率の高い過疎地域では、都市部と比較しても車両保有台数が少ないのは明らかであり、これにより交通量が都市部より少なく算定される結果となる。「真に必要な道路」であっても、この評価基準において道路事業の優先度が決められるのでは、地方における道路環境は一向に改善されることはない。

当町が要望する「真に必要な道路」とは、交通量による利用頻度の度合いのみが先行せず、地域によってどのような目的で、どのような使われ方があり、そして住民が平等でその効果を実感できる道路整備の実現である。このため評価基準の見直しをぜひとも行っていただきたい。

②－１ 地域の現状と抱える課題

○現状

木古内町は松前方面、江差方面への交通の分岐機能を有し、交通の要衝の町として古くから栄えてきた。

北海道新幹線の開業も７年後に迫り、渡島西部地域や檜山南部地域を包括する広域的な駅の町として、その機能に期待をされているところである。

こうした町の新たな特性は、当町の活性化を図るうえでも最大限に活用しなければならない。また、新幹線効果を広域観光等に結びつけ道南エリア全体にその効果を広げるためにも、当町の果たすべき役割や責任は大きいものがあると考えている。

当町では、新幹線木古内駅を効果的に活用し、乗降客を増やすために、広域観光ルートの形成に取り組んでいる。木古内駅から観光地として知名度の高い江差町や松前町へ向わせるルートを、積極的にＰＲし、観光交流人口を増やしていきたい。しかし、松前町へ向う道路は、海岸線に沿った国道が１路線で、高波の際には、通行止めになるなど交通機能が完全に遮断されてしまう状況にある。また、江差町に向う道道についても道路線形が悪く、冬場のバス運行ができないなど、観光事業を推進するうえでは致命的な道路環境となっている。

道路を連絡する町同士が期成会を組織し、整備促進に向けた要望活動に取り組んでいるが、全面的な改良等には至っていないのが現状である。

また、当町から函館市までのアクセスについても、主要な道路は国道が１路線しかなく、高齢者率の高い当町では、今後救急搬送が増えることが予想される。万が一交通事故や災害の影響で、現国道が寸断された場合、町民の生命に関わる問題であることから、確実な救急搬送対策としても、現在進められている高規格幹線道路の早期完成を望み、町としても整備促進に向けた要望活動を現在も行っているところである。

○課題

広域観光ルートの形成には、現在民間が主体的に活動しているシーニックバイウエイがある。

地域が持つ歴史資産や風景、また、食や郷土品など、単町が持つ観光資源には限界があるが、広域エリアとして単町の持つ資源を繋ぎ合わせれば、このエリアも十分観光地として道外からの旅行者を招き入れることができる。

しかし、こうした地域間を連携し、広域観光づくりを目指しても、道路環境が著しく悪い状況の中では、広域観光ルートの実現には至らない。

特に、広域観光として今後需要が高まることが予想される観光バスにおいては、江差町までの道道の急カーブと急勾配の改良を改善しなければ、安全でゆとりある走行ができない。また、道外から訪れる旅行者が、冬場でも安全にレンタカーを利用し、目的地まで移動することができる道路環境の改善も今後大きな課題となる。

また、江差町と函館市を結ぶ高規格幹線道路は、渡島の観光地と檜山の観光地を結ぶ重要な幹線道路になるが、木古内江差間の整備については、今後どのような計画が示されるのか予想ができない。観光交流人口の増加や、物流機能の確保など本路線が持つ機能と効果は十分見込められると思われるが、この整備の進捗も課題として残る。

いずれにしても、道南エリアにおける道路網の整備は、来るべき北海道新幹線の開業により、その効果は最大限に発揮されることから、開業時に合わせ集中した道南道路網整備の推進をどのように展開し、どのように中央に要望していくかが最大の課題となる。

②－２ 地域の目指すべき将来像

この道南地域は、北海道新幹線の開業により、道内で最初に新幹線効果を受ける地域となるが、一方で道外から訪れる旅行者の方に、北の大地北海道を印象づける責任と役割を担うことになる。

北海道をイメージする雄大な自然、北海道ならではの豊かな食。旅行者に北海道を満喫してもらうためには、広い北の大地に点在する主要都市や、道内の有数な観光地を「線」で繋ぐ道路の存在が最も重要となってくる。

飛行機と違い、人の大量輸送が可能となる新幹線の開業により、多くの旅行者が北海道に、とりわけ道南地域へ訪れる。全国でも有数な観光都市である函館を中心に、道南観光集客は確実に増加してくるものと予想される。観光バスを利用し目的地へ向う旅行者やレンタカーを利用し個人旅行を楽しむ方。こうした旅行者のニーズに対応し、既存の観光産業の底上げや、新しい観光ビジネスを展開することが、新幹線効果を高める道南地域全体の課題であり、また目標であると考える。

この道南地域には、幕末維新の歴史資産や、海の幸、山の幸といった新鮮な食がある。また、自然が作り出した景観も今では立派な観光として位置づけられている。

しかしこれは「点」として各地域に存在するもので、この「点」を結び繋げる「線」を整備しなければ、広域観光による地域全体の活性化を生むことはできない。

7年後、北海道を新幹線が駆け抜ける時、既に道南地域における一般道の改良や高速交通網が整備され、今主流となっている少人数単位での個人旅行の割合が高まれば、各地域の観光スポットに立ち寄り、観光地を周遊する「点」を「線」で結んだ広域観光ルートが実現し、そのエリア全体を「面」（観光地）として、広く道内外の旅行者にPRすることができる。

こうした、「線」の道路整備と「面」の観光地開発を行うことで、道南の観光集客に伴う基盤はさらに拡がりを見せ、新たな産業の展開や既存サービス業の発展にも繋がっていくものと予想される。

また、新幹線と道南道路網整備が融合することで、道外企業の道南圏における企業立地や、団塊の世代の北海道移住構想にも大きな影響を与えるものと確信している。

北海道新幹線がもたらす北海道の経済効果は、まずは最初の駅となるこの道南地域が、自ら立証していかなければならない。そのためにも、新幹線効果を最大限に引き出すための道路網整備は確実に実施していただき、北海道新幹線札幌延伸への気運を高めていきたいと考えている。

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

北海道木古内町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
高規格幹線道路の整備促進	函館市との移動時間の短縮	高規格幹線道路は、函館開発建設部により現在工事が進められているが、木古内ＩＣが開通することで、道南地域の産業の中心である函館市までの移動時間が大幅に短縮される。当町の就業人口の約１２％が函館市へ通勤していることから、通勤時間の短縮や、冬期間における交通事故が減ることが予想される。また、通勤圏になることで、町内における移住者や定住者が増えることの期待をしている。	
	高次医療の提供	当町は高齢者比率が高く、医療福祉のまちづくりを進めるうえで、高次医療の提供は最重要課題である。しかし、高次医療は全て函館市に集中し、今後迅速な救急搬送体制が求められてくる。住み慣れた町で安心して暮らせる環境基盤を作るためにも、高規格幹線道路の開通は大いに期待するところである。	
	国道のバイパス機能	木古内函館間は主要な国道が１路線のみであり、交通事故や災害等により交通機能を失った場合、復旧するまで函館市との行き来ができなくなる状態である。通勤通学や物流等においても、道南経済の中心は函館市であることから、もう１路線の整備は絶対的に必要である。	
北海道新幹線に伴う道路整備	広域観光ルートの整備	北海道新幹線の開業に合わせて、広域観光ルートの実現に向けた取り組みを行わなければならない。各地域が持つ観光資源を集約し、一つの観光エリアとして旅行者の集客を目指す。ルートを形成する道路環境が悪いため、冬場のバス運行が制限されるなど、広域観光を提供できる環境に至っていない。このため、道路環境を改善し観光ルートを形成することで、道南観光の集客増を図り地域全体の活性化に繋げていく。	
国道２２８号線の維持管理	冬期間の道路安全管理	当町は特別豪雪地帯の指定を受けるほど年間の降雪量が多く、町道の除排雪経費も多額な予算を投じている。国道２２８号線も道路脇に堆雪する雪の量が非常に多く、交差箇所の見通しの悪さから、交通事故を引き起こす原因ともなっている。このため既存道路の安全対策を強化することで、北海道の交通死亡事故の減少にも繋がることを期待される。	